資料１

福島町地域福祉計画策定について

平成 21 年 10 月 19 日

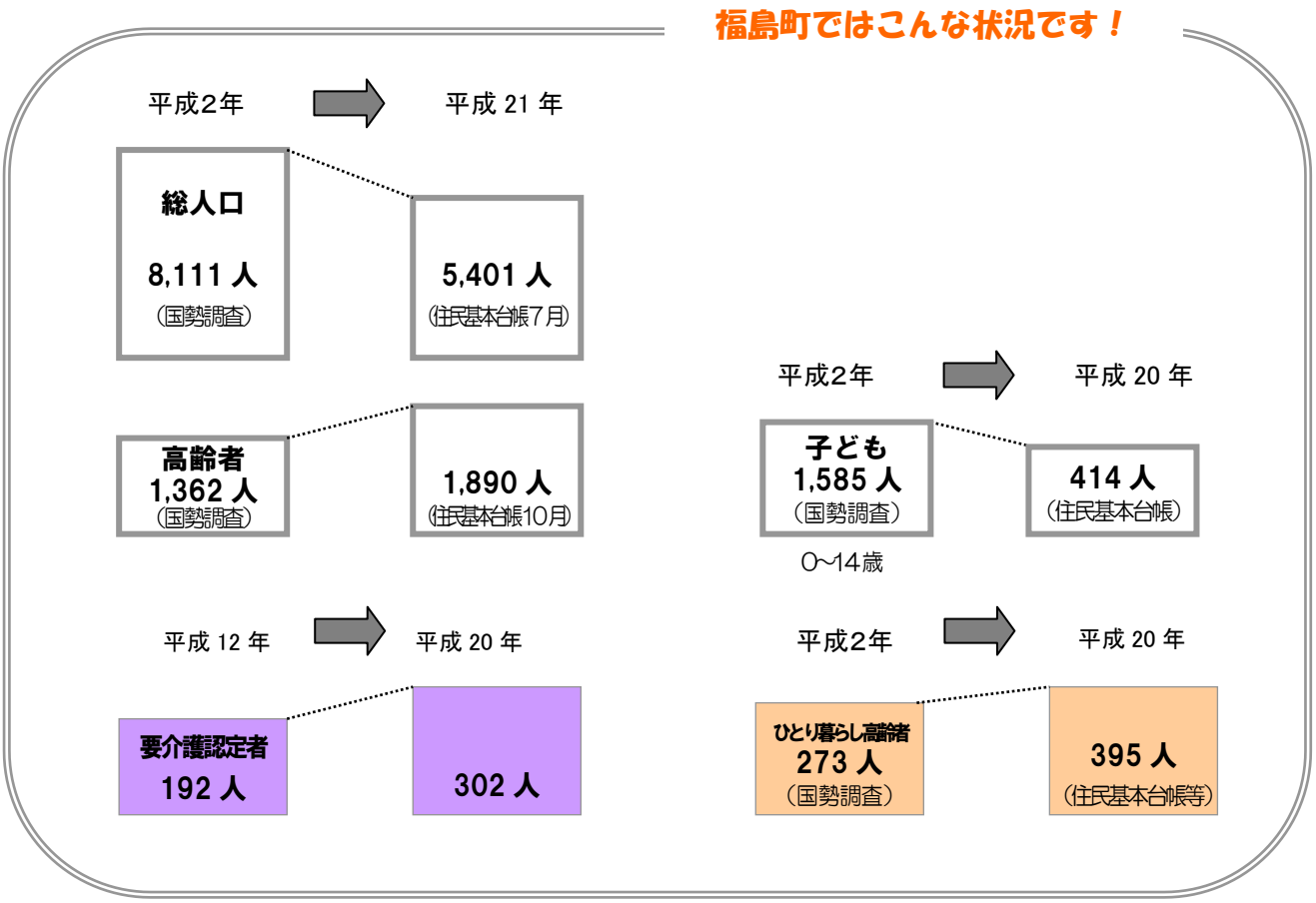
町民課　福祉グループ

目　次

１．福島町地域福祉計画策定の目的と意義 1
２．地域福祉計画が目指すもの 3
３．アンケートから 4

1．福島町地域福祉計画策定の目的と意義

本町においても人口減少や高齢化、少子化が進んでいます。また、要介護認定者やひとり暮らし高齢者など、住み慣れた町で暮らしていくには支援が必要な町民も増加しています。



福島町では福祉に関する計画として、高齢者の計画（高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画）、障害者の計画（障害者福祉計画・障害福祉計画）、子どもの計画（次世代育成支援行動計画）を策定しています。また、健康に関する計画として、健康づくり推進計画「いきいき健康ふくしま」があります。個々の対象者別にはこのような計画に基づいてサービスが提供されています。しかし町で暮らしていくためには、もっと決め細やかな支援が必要ではないでしょうか。

これまでの福祉施策は、支援を必要とする人に対する行政からの一方的なサービス提供や措置が主な内容でした。しかし、少子高齢化や核家族化の進行、産業構造の変化やライフスタイルの多様化により、家族内でまかなうことや地域での助け合い機能が低下しており、福祉のあり方も大きく変えていかなければならない状況にあります。

今回、本町が策定する地域福祉計画は、社会福祉法第 107 条に基づいて地方自治体が策定するもので（努力義務）、次の３つの事項を盛り込むことが法律で定められています。

社会福祉法（抄）（昭和 26 年法律第 45 号）

（市町村地域福祉計画）

第 107 条　市町村は、地方自治法第2条第4項の基本構想に即し、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画（以下「市町村地域福祉計画」という。）を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、住民、社会福祉を目的とする事業を経営する者その他社会福祉に関する活動を行う者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるとともに、その内容を公表するものとする。

1　地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する事項

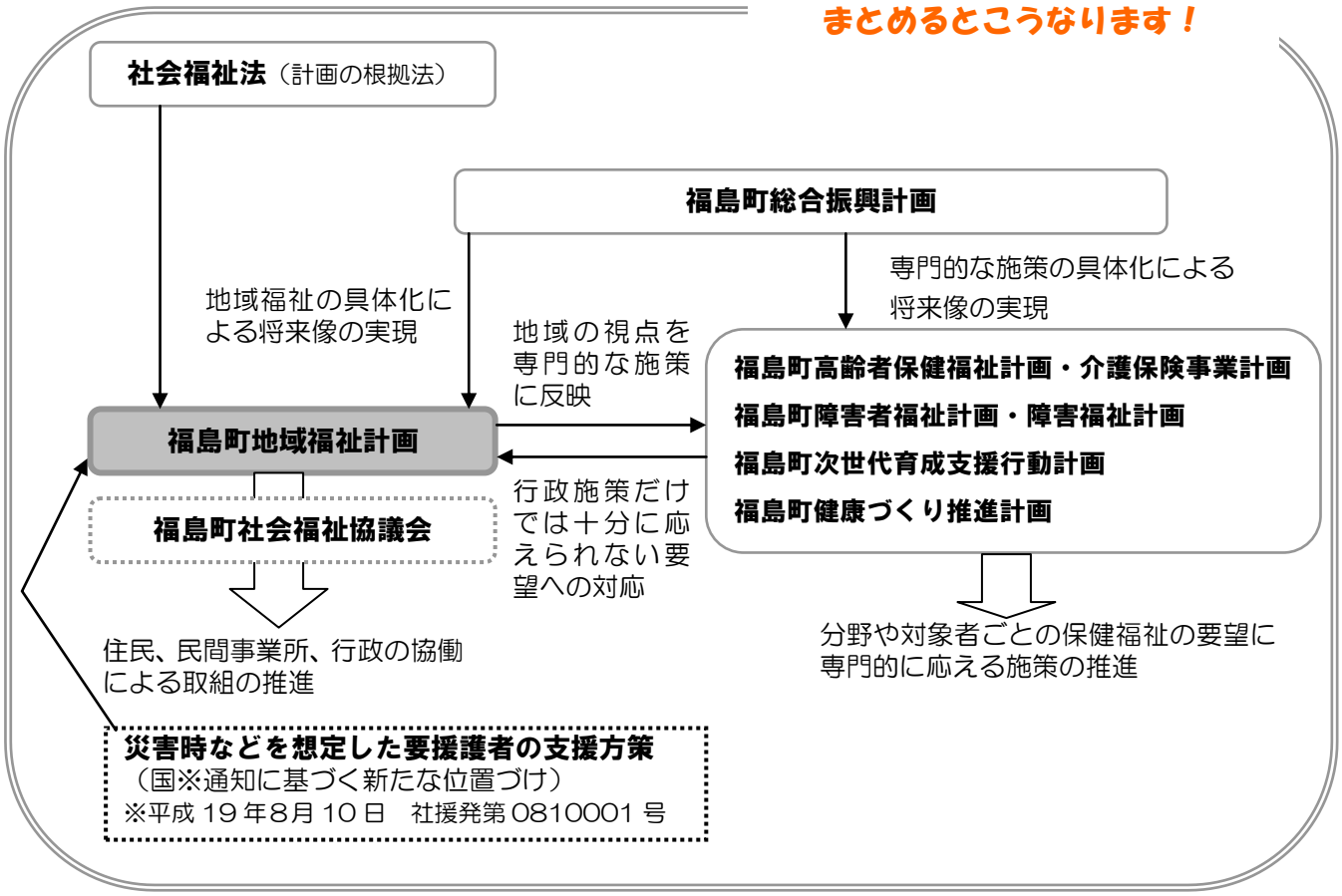
2　地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項

3　地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項

また、「福島町総合振興計画」の生活関連の施策について、地域福祉の視点から具体化を図る指針となり、保健福祉の各計画と関連しながら、住民、民間事業所、行政の協働による取組を推進するための計画です。加えて、国の通知に基づき、災害時などを想定し、要援護者の支援方策を盛り込むこととされています。

このため、本町では、地域福祉に係る町内の資源や住民意向を把握し、「自助・共助・公助」の連携を図りながら、町民が共に支えあう安心安全なまちづくりを推進するための指針として「福島町地域福祉計画」を策定します。

【地域福祉計画の位置づけ】



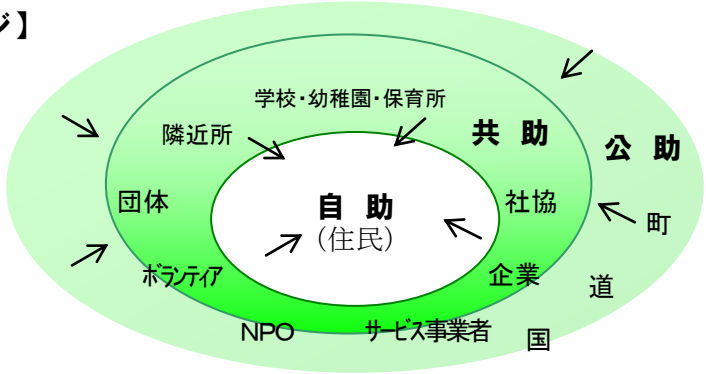
2．地域福祉計画が目指すもの

計画策定に当たっては、特に次の視点を明確にした、計画策定を目指します。

福祉行政からみた「自助・共助・公助」と望ましい“地域”の在り方のデザイン

介護保険や障害福祉など福祉の各分野のいろいろな制度改革によって、公的なサービス（セーフティネット）は充実してきました。しかしこうした対象者が増えていく現状では、個人の問題としてとらえるのではなく、地域全体の問題として取り組むことが重要です。住民一人ひとりの地域による「自助」と公的な支援である「公助」を前提に、住民相互の支え合いである「共助」が求められています。それぞれが担うべき役割を見直し、どのような方策を重点的、戦略的に講じるか、住民ぐるみで“地域のあり方”を再構築していくものとします。

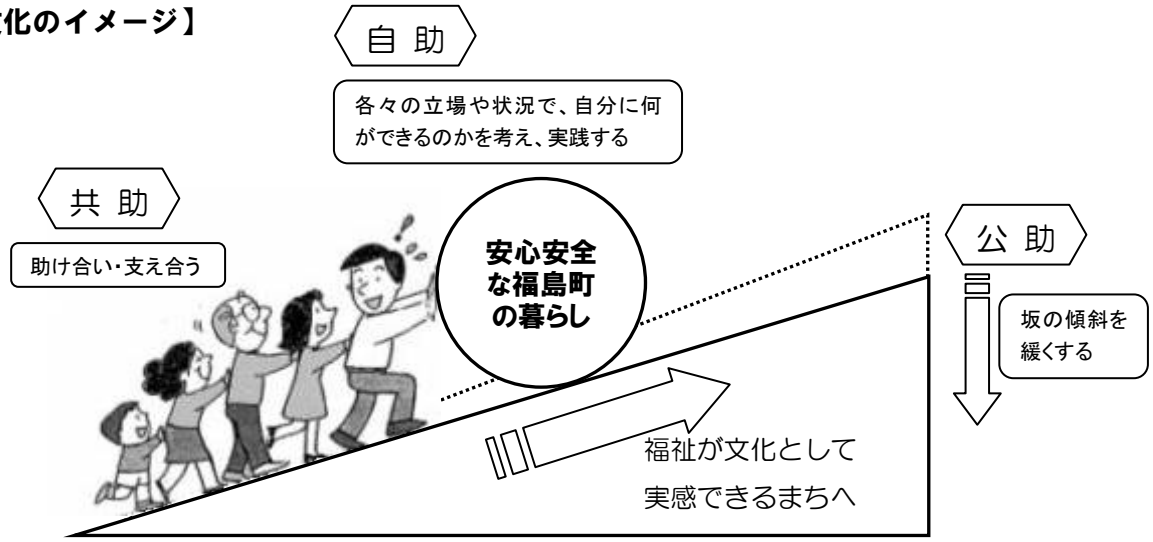
【自助・共助・公助のイメージ】



福島町の“福祉文化”の確立

住み慣れた地域に安心して暮らすことは、すべての人に平等に与えられた権利です。住民同士が互いに助け合い・支えあうことで人生を豊かに生き生きと暮らしていけるよう、それぞれの立場や状況の中で自分に何ができるのかを考えていくことが重要です。そのために、それぞれの個性が発揮され、生きがいを持って暮らすことができる、「福島町の福祉文化」をつくる計画を目指します。

【福祉文化のイメージ】

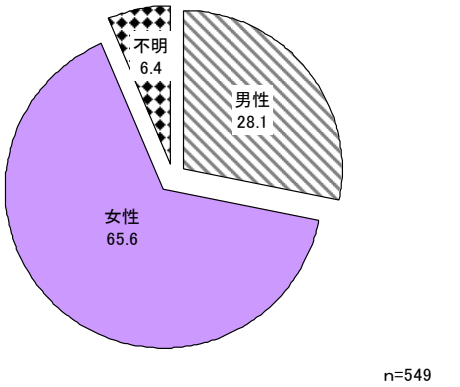


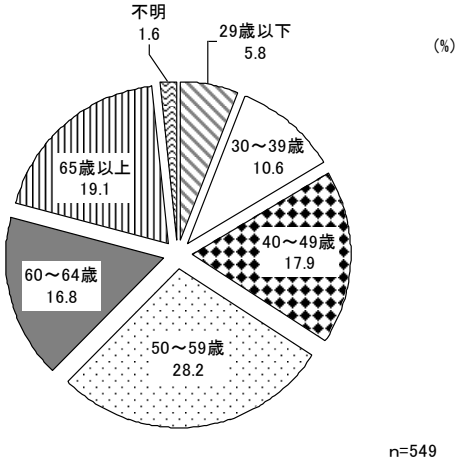
３．アンケートから

「健康で生きがいのある、安心して暮らすことのできるまち」をめざし、町民、行政、福祉関係者などが互いに助け合い、支えあう仕組みを共に考えていくための「福島町地域福祉計画」の策定にあたって、「地域福祉」に関する町民のご意見やご要望を収集するために実施しました。

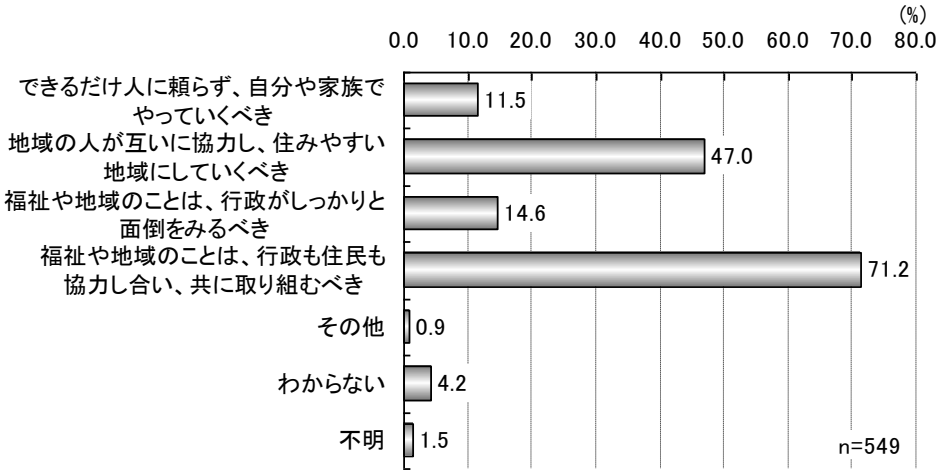
調査対象	福島町に居住する 18 歳以上町民
標本数	1,000
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収
回収率	54.9%
調査時期	平成 21 年８～９月

■回答者の性別と年齢



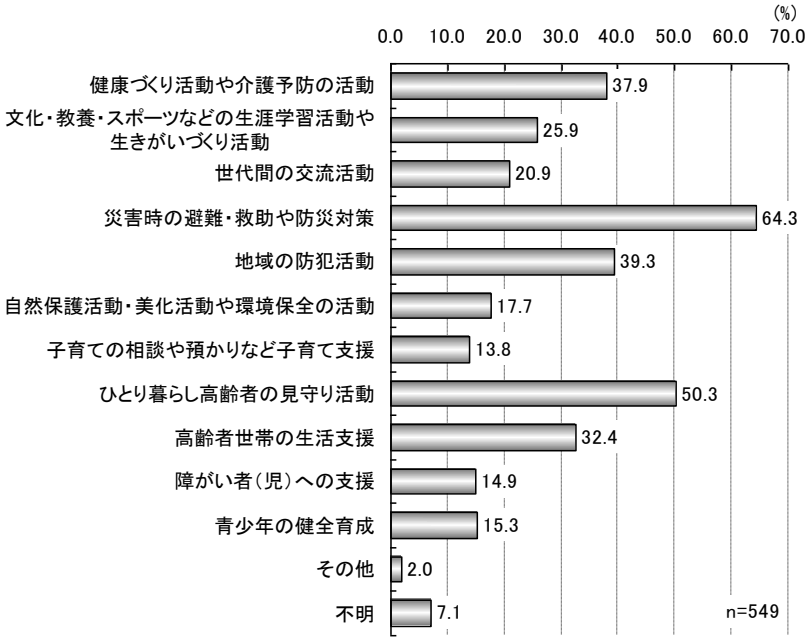


■これからの福祉への考え



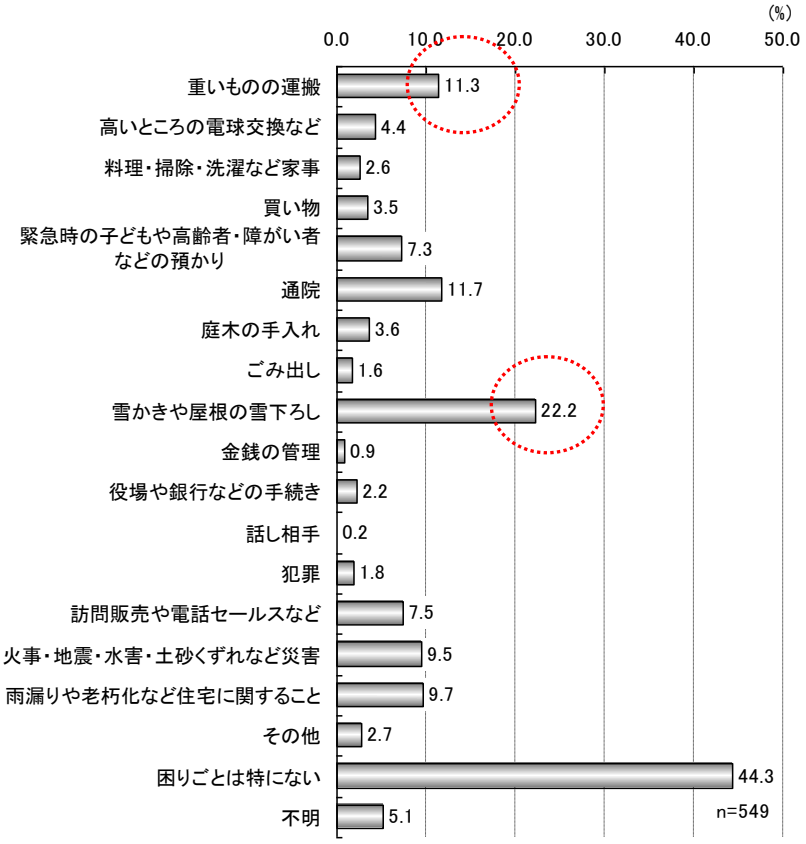
これからの福祉は行政と住民が協働すべきとする人が７割を超えています。

■地域で協力したほうがよいと思うこと



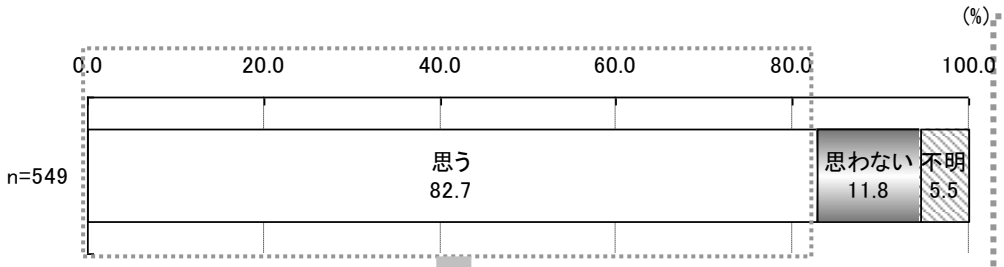
地域で最も協力すべきは「災害時の避難・救助や防災対策」で６割を超え、すべての年代で第１位です。
第２位は「ひとり暮らし高齢者の見守り活動」で５割です。

■暮らしの中の困りごと



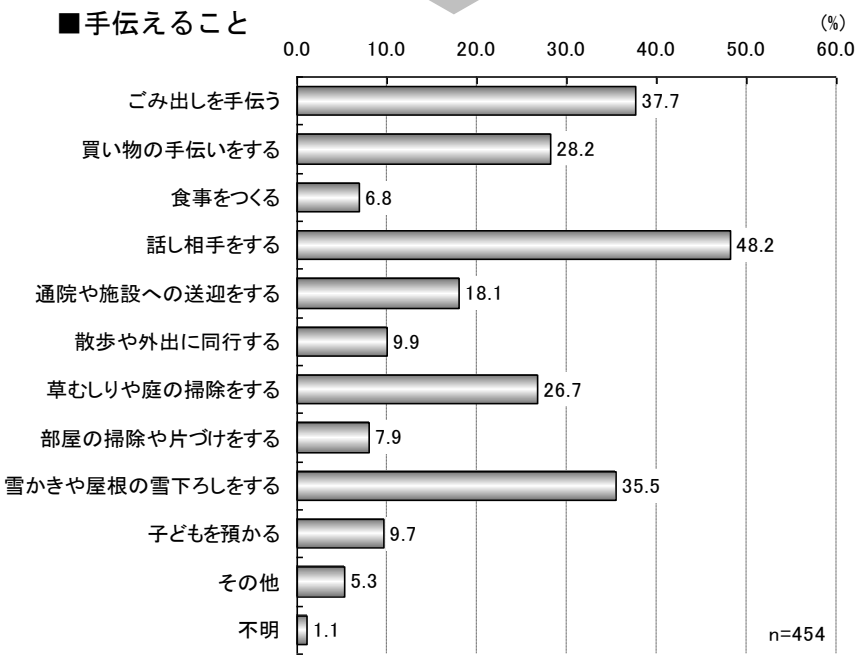
最も多い困りごとは「雪かきや屋根の雪下ろし」。続いて「重いものの運搬」。
ひとり暮らしでは「雪かきや屋根の雪下ろし」「重いものの運搬」「高いところの電球交換など」「料理・掃除・洗濯など家事」。

■近所や地域の中で手助けできること



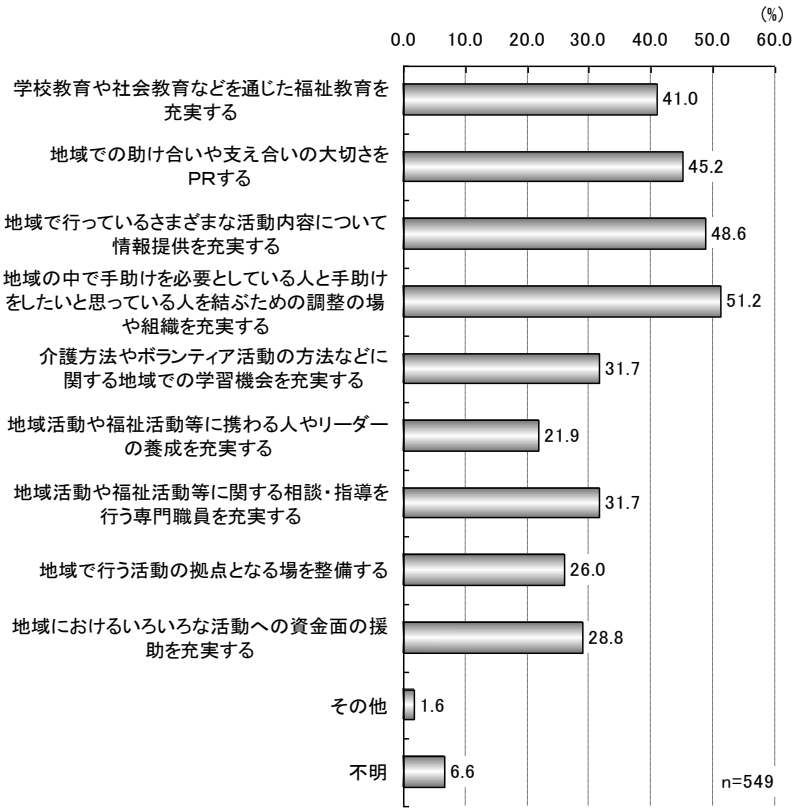
地域で悩みや困っている世帯に手助けをしたい人は８割を超えています。

■手伝えること



地域で手伝えることは「話し相手」が最も多く、「ごみ出し」「雪かきや屋根の雪下ろし」が続いています。

■支え合い活動の発展に必要なこと

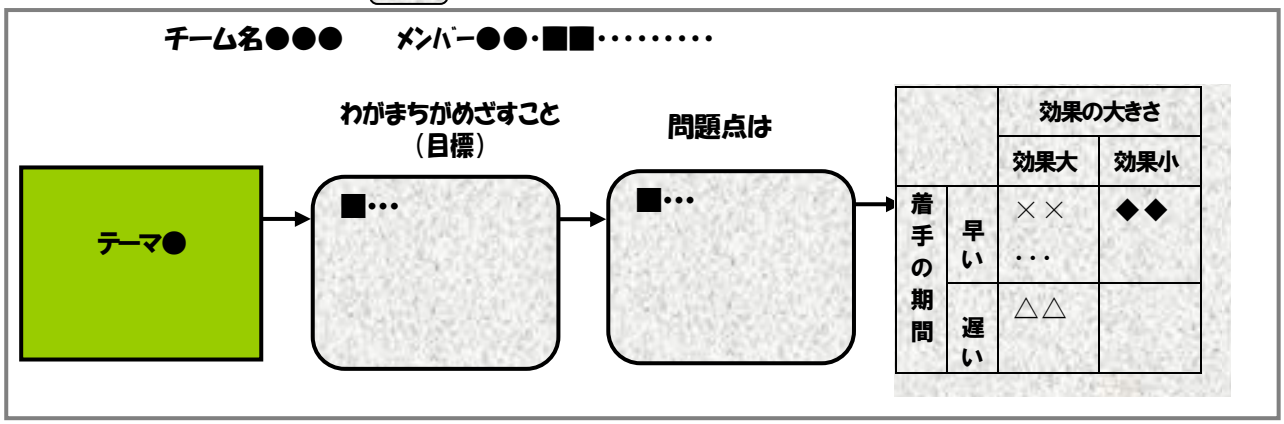


地域での助け合いや支え合いの活動の輪を広げていくために必要なことは、「助けが必要な人と助けたい人とを結ぶ組織の充実」と「地域活動の情報提供の充実」。次いで、「地域での助け合いや支え合いの大切さのＰＲ」「学校教育や社会教育などを通じた福祉教育の充実」が続いています。

福島町地区懇談会の進め方（平成 21 年 10 月 19 日）

項目	内　容	時間	備考
1　開会の挨拶		25 分	
2　趣旨と経緯説明	資料１　福島町地域福祉計画について 資料２　福島町地区懇談会の進め方 資料３　地区懇談会のテーマ 資料４　策定委員会で出た意見（地域で気になること）		
3　グループワーク準備	・自己紹介 ・リーダー、記録係、発表者、進行係の決定 ・**テーマの選定**（テーマ１～４の中からグループの合意で１つ選ぶ） ・模造紙のレイアウト作成（テーマ、グループ名等下図参照）	10 分	
4　グループワーク前半	・「わがまちがめざすこと」の話し合い・作成（例のままでもＯＫ） ・目標達成に向けて「問題なこと」について話し合い、ポストイット作成 ・ポストイット整理して摸造紙にマジックで記入	20 分	
5　グループワーク後半	・「問題なこと」を地域で解決するために、今後の取組への提案（優先順位をつけて）を話し合い、模造紙を完成させる	20 分	
6　グループワーク発表	・わがまちがめざすことを実現するための提案（各グループ発表者） ・他のグループからの意見	20 分	
7　まとめ			
8　閉会の挨拶			

模造紙作成イメージ図　　※□ **の中を作成していただきます。**



事務局のみなさんへ

配置：テーブルははじめからグループにセットしてください。

準備：模造紙　各テーブル１枚
　　ポストイット（正方形）各テーブル２色
　　色マジック・黒マジック（各テーブル）
　　セロハンテープ（ポストイット固定用）
　　ホワイトボード等（なければ模造紙を張るボードでＯＫです）
　　広報ふくしま、福祉・保健関連のサービスのパンフレット（町民向け）各テーブルで１部
　　マイク（部屋が広い場合には準備した方がいいと思います）

テーマ１　サービスを豊かに利用するための情報・相談

グループで変えてもOK

できるだけ具体的にたくさん出してみよう

暮らしに必要なサービスを豊かに使うために必要な情報や相談

策定委員会で出た意見（資料 3）：
- ●高齢者のひとり暮らしが不安
- ●高齢者が相談に来るがどこまで個人で対応していいのかわからない
- ●まったく身寄りのない高齢者が増え、介護サービスの手続き、入退院、財産管理などで困っている
- ●認知症の人やその家族介護者も心配
- ●支援が必要な人に対してどうすればいいのか

わがまちがめざすこと（目標）

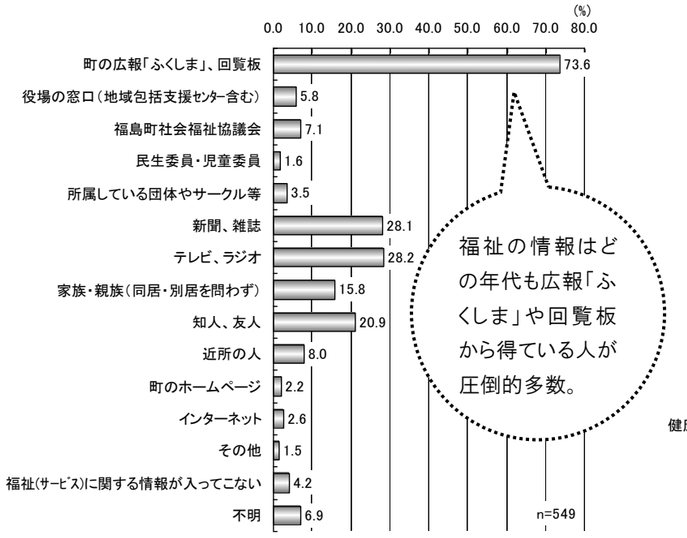
■必要な時に確かな情報を得て活用できるまち

目標を達成するために地域で問題なことは？

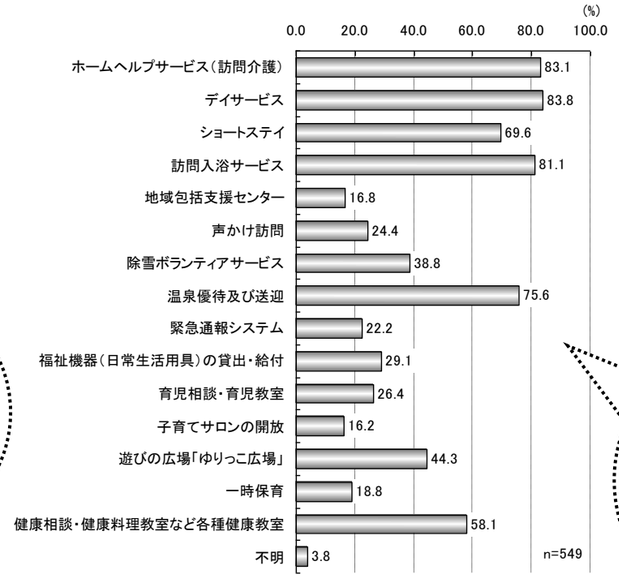
■文字が小さい
■言葉がむずかしい
■どこに相談にいけばいいのかわからない
■相談に行けない場合はどうするのか
■24 時間の相談が必要
■
・・・・

例

アンケートから見えたこと：
みんな、広報ふくしまをよく見ているようだが、誰にもわかりやすく出来ているだろうか？



福祉の情報はどの年代も広報「ふくしま」や回覧板から得ている人が圧倒的多数。



60 歳代は利用する可能性があるデイサービスや緊急通報システムも知らない人が多く、サービス全般に認知度が低い。

では、どんなことに取り組んだらいいか？
今後どのように改善したらいいのか、提案してみよう！優先順位をつけて。

		効果の大きさ	
		はじめると効果は大きいと思う	効果は小さいが必要だと思う
着手の時期	早い（すぐできそう）2年程度以内		
	遅い（後でもよさそう）2年以上		

テーマ2　地域のきずな

地域のきずなが感じられる

策定委員会で出た意見（資料 3）：

- ●共働き家庭の子どもの行き場として託児所、児童館がない
- ●独居世帯、老人世帯の憩いの場が少ない
- ●独居世帯、老人世帯が増えており心配
- ●若者が地元を離れてしまう
- ●ごみを川に捨てる人がいる
- ●ごみの分別が悪い
- ●夜のウォーキングスタイルに気をつけてほしい
- ●母親や女性が子どもの前でたばこを吸うのはどうなのか
- ●非社交的な人への対応に苦慮しているが、どうすればいいのか

わがまちがめざすこと（目標）

■家族のようなきずなで結ばれているまち

目標を達成するために地域で問題なことは？

- ■近所であいさつしない
- ■転入者にこちらから近づいていない
- ■気軽に立ち寄る場所がない
- ■
- ■

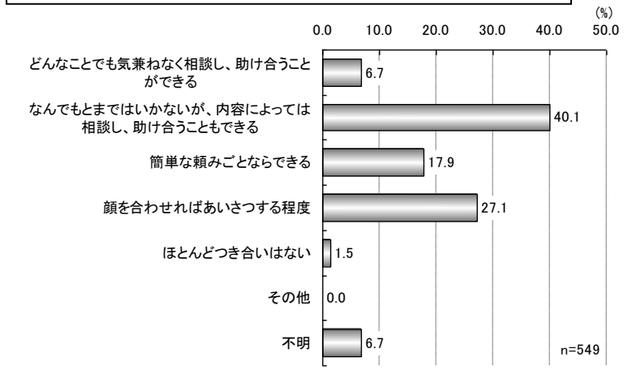
では、どんなことに取り組んだらいいか？

今後どのように改善したらいいのか、提案してみよう！優先順位をつけて。

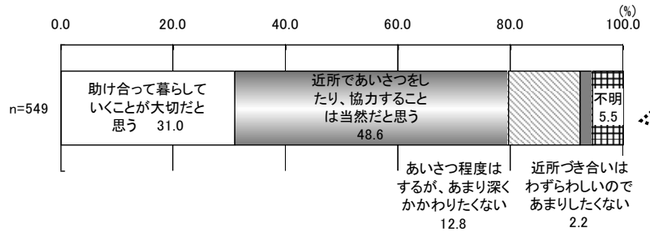
		効果の大きさ	
		はじめると効果は大きいと思う	効果は小さいが必要だと思う
手着の時期	早い（すぐできそう）2年程度以内		
	遅い（後でもよさそう）2年以上		

アンケートから見えたこと：

親しいつき合いをしているのはわずか。でも近所で助け合うことには多くの人が同意している。



ある程度助け合うことができるつき合いをしている人はおよそ65%。一方で、あいさつする程度の軽いつき合いが 30%弱。



近所で助け合うことが大切とする積極派は3割。やや消極派が5割弱。助け合いが当然とするのは 60 歳代、あいさつする程度でかかわりたくないは 40 歳未満が多い。

テーマ３　安全安心な暮らし

誰もが安全安心に住める地域

わがまちがめざすこと（目標）

■みんなで協力して、いざというときのために備えるまち

目標を達成するために地域で問題なことは？

■災害時に支援が必要な人をどうやって把握したらいいのか

■避難所生活は大丈夫だろうか

■防犯対策もあるよね

策定委員会で出た意見（資料３）：

●災害時の避難体制に不安がある
●防災無線が聞きづらい
●災害時に高齢者の避難を援助したいが、どこに誰が住んでいるのかわからない
●災害時には自分の家族のこともあり、どう動くのかマニュアルはあるのか？
●道路の段差があり車イスや杖利用、歩行器、小さい子どもが歩きづらい
●子どもの安全な遊び場が心配
●高齢者でいつも詐欺に遭う人がいるが、なかなかアドバイスを聞き入れてくれない
●空き家が多くなり、防犯や災害時の問題がある
●空き家の財産としての処理はどうなっているのか

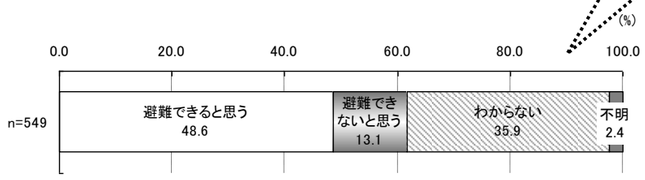
アンケートから見えたこと：

災害が起こったらどのように行動するのか、わからないとする人が多い。避難場所も知らないなど関心は低い。

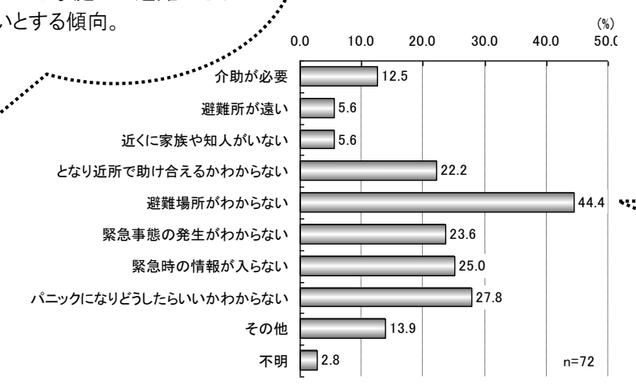
では、どんなことに取り組んだらいいか？

今後どのように改善したらいいのか、提案してみよう！優先順位をつけて。

		効果の大きさ	
		はじめると効果は大きいと思う	効果は小さいが必要だと思う
手着の時期	早い（すぐできそう）2年程度以内		
	遅い（後でもよさそう）2年以上		



災害時に避難できるとするのは半数に届かない。避難できないが1割を超える。要介護や障がいのある人がいる家庭では避難できないとする傾向。



災害時避難ができない理由は、「避難場所がわからない」が4割を超えて最も多い。

平成 18 年6月障害者アンケート調査より
：身体障害者手帳・療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療費（精神通院）支給認定受給者証所持者に実施
1,825 配布／54.2%回収

テーマ4　ボランティア

もっとボランティアが増える

策定委員会で出た意見（資料 3）:
●高齢者自身が生きがいを持てる活動が必要ではないか

わがまちがめざすこと（目標）

■住民みんながボランティアになるまち

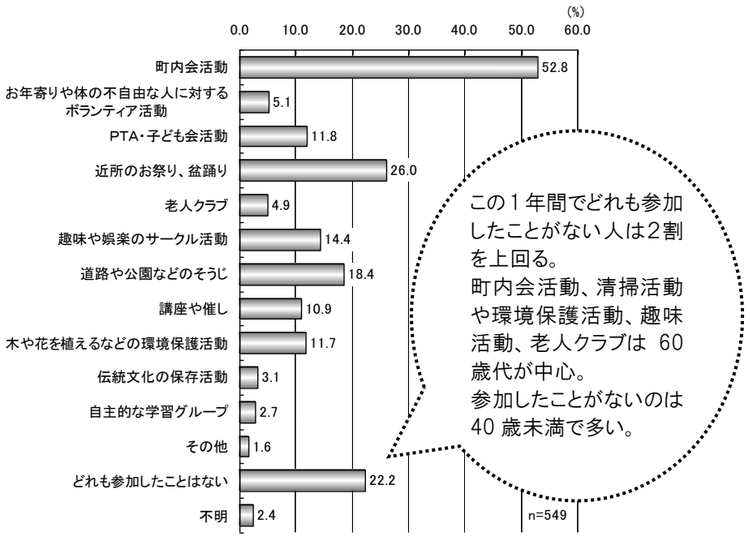
目標を達成するために地域で問題なことは？

■若いボランティアが少ない
■いつも同じ人が活動している。
■ボランティア活動にはどんなことがあるのか？

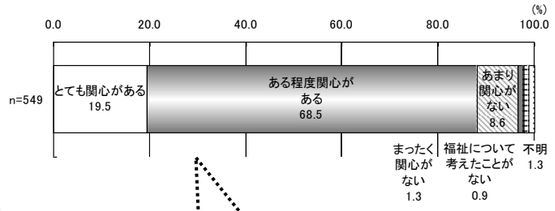
では、どんなことに取り組んだらいいか？
今後どのように改善したらいいのか、提案してみよう！優先順位をつけて。

		効果の大きさ	
		はじめると効果は大きいと思う	効果は小さいが必要だと思う
着手の時期	早い（すぐできそう）2年程度以内		
	遅い（後でもよさそう）2年以上		

アンケートから見えたこと:
福祉に関心がある人が多いのに、ボランティア活動も地域活動も何も参加していない人がいる。



この１年間でどれも参加したことがない人は2割を上回る。
町内会活動、清掃活動や環境保護活動、趣味活動、老人クラブは 60 歳代が中心。
参加したことがないのは 40 歳未満で多い。



福祉に関心がある人は9割近く。

地域で気になること

資料4

グループ名	テーマ分類	グループワークで出た地域で気になること	対策案	対象者				
				子ども	高齢者	障がい者	健康	その他
やまゆり	3	防災無線が聞きづらい	戸別設置が必要ではないか（国の補助があるのなら）					○
	3	災害時の避難体制に不安がある	地域における援助体制が必要ではないか					○
	1	高齢者のひとり暮らしが不安	地域における援助体制が必要ではないか		○			
	2	若者が地元を離れてしまう						○
	2	ごみを川に捨てる人がいる						○
	2	ごみの分別が悪い						○
どすこい福祉	1	医者の後継者がくるのか		○	○		○	
	1	入院設備がない		○	○	○		
	3	道路の段差があり車イスや杖利用、歩行器、小さい子どもが歩きづらい						○
	3	空き家が多くなり、防犯や災害時の問題がある						○
	3	空き家の財産としての処理はどうなっているのか						○
	3	災害時に高齢者の避難を援助したいが、どこに誰が住んでいるのかわからない			○	○		
	2	共働き家庭の子どもの行き場として託児所、児童館がない		○		○		
	2	夜のウォーキングスタイルに気をつけてほしい						○
	1	高齢者が相談に来るがどこまで個人で対応していいのかわからない	認知症高齢者（単身者）が多い		○			
	4	高齢者自身が生きがいを持てる活動が必要ではないか	活動に参加しない人はどうすのか？		○			
	3	子どもがどんどん減少しているが学校の統廃合後の通学手段はどうなるのか		○				
	3	子どもの安全な遊び場が心配	子どもの見守りも必要	○				
	2	関係者の合同の会議、定例会が必要	フリートークの場が必要、当会議がそうなればいい					○
	3	災害時の要援護者問題が心配	災害時の対応の割り当てが必要ではないか					○
	3	災害時には自分の家族のこともあり、どう動くのかマニュアルはあるのか？	避難場所の検証が必要ではないか					○
	3	高齢者でいつも詐欺に遭う人がいるが、なかなかアドバイスを聞き入れてくれない			○			
	2	母親や女性が子どもの前でたばこを吸うのはどうなのか		○			○	
	1	まったく身寄りのない高齢者が増え、介護サービスの手続き、入退院、財産管理などで困っている			○	○		
福＆福	2	独居世帯、老人世帯の憩いの場が少ない	高齢者と子どもがふれあえる行事が必要		○			
	2	独居世帯、老人世帯が増えており心配	通院、買い物、除雪等日常生活への支援が必要		○			
	1	認知症の人やその家族介護者も心配	認知症など徘徊者への支援が必要（介護者へのケアも含め）		○			
	1	支援が必要な人に対してどうすればいいのか	地域で世帯状況を共有する必要がある					○
			相談の連絡網を周知する必要がある					○
			地域での世話好き人を複数設置（孤立を防ぐため）					○
			避難場所の周知が必要					○
	2	非社交的な人への対応に苦慮しているが、どうすればいいのか						○

テーマ１　サービスを豊かに利用するための情報・相談

グループ	秋桜（コスモス）	メンバー	住吉、佐藤、三影、諏訪、工藤（クニ）、塚本（リーダー）、山田（記録・進行）、塚本・花田（発表）

わがまちがめざすこと（目標）

■情報を必要とする人の立場に立った情報提供と自ら知るための努力・工夫をしよう！！

そのためにみんなが改善すべき点は？

＜地区懇談会で出た課題＞
▼せっかくの防災無線が聞こえない。
▼広報・回覧は見ているが、いざとなったら忘れている。
▼温泉バスやゴミ処理の表が見にくい。
▼相談場所がわからない。

＜策定委員会で出た課題＞
●高齢者のひとり暮らしが不安。
●高齢者が相談に来るがどこまで個人で対応していいのかわからない。
●まったく身寄りのない高齢者が増え、介護サービスの手続き、入退院、財産管理などで困っている。
●認知症の人やその家族介護者も心配。
●支援が必要な人に対してどうすればいいのか。

わたしたちの提案

効果大～2年以内にする

- □ 広報・回覧はきちんと個々で管理して必要なときに見返すようにする（自助）。
- □ 広報・回覧はなお一層の発行を工夫！！読む人の立場になって！！（公助）
- □ 温泉バスやごみ処理については、地区ごとの表などをつくってみたらどうか（公助）。
- □ 相談する場所として役場、社協の広報や周知を工夫する（共助・公助）
- □ 地域で日常的に色々な話が出来るような人づきあいをする（共助）。

効果小～2年以内にする

効果大～2年より後でする

- □ 防災無線の個別受信器を設置する（一部自己負担もあり？）。

効果小～2年より後でする

テーマ２　地域のきずな

グループ	ひまわり	メンバー	西田、中山、新山、堀井、高田、坂口（リーダー・発表）、工藤（泰）（記録・進行）

わがまちがめざすこと（目標）

■家族のようなきずなで結ばれているまち！！

そのためにみんなが改善すべき点は？

＜地区懇談会で出た課題＞
▼若い人がいないので年寄りだけで、困っていること（ひざの調子が悪いが運動したい、避難場所がわからない、避難路の山道は登れないが避難できるのか等）の持っていく先がわからない。
▼ふれあい教室は近くなので参加しやすいが、参加者が少なく、いつも同じ人。
▼ふれあい教室は春から秋は月２回だが冬は月１回になってしまう。
▼老人区クラブに入る人が少ない。
▼町内会ごとのつながりは深いが、それ以外は薄いのではないか。
▼人によって受けとめ方が違い、人と付き合うのは難しい。
＜策定委員会で出た課題＞
●共働き家庭の子どもの行き場として託児所、児童館がない。
●独居世帯、老人世帯の憩いの場が少ない。
●独居世帯、老人世帯が増えており心配。
●若者が地元を離れてしまう。
●ごみを川に捨てる人がいる。
●ごみの分別が悪い。
●夜のウォーキングスタイルに気をつけてほしい。
●母親や女性が子どもの前でたばこを吸うのはどうなのか。
●非社交的な人への対応に苦慮しているが、どうすればいいのか。

わたしたちの提案

効果大～2年以内にする

□ 挨拶は基本（大人と子どもの挨拶はうまくコミュニケーションがとれている）。
□ 教室や催し物などが行われる時は、参加するよう近所へ声をかけていく。

吉岡のよいところは

・ 隣近所のことは気にかけている。
・ 一日顔を見ないと心配な関係。
・ あいさつはみんながしている。
・ 温泉があって助かる。
・ 吉岡に病院があるので安心。
・ 吉岡の中に病院、郵便局、店があり便利。

効果大～2年より後でする

テーマ３　安全安心なくらし

グループ	やまゆり	メンバー	木村、菊池、平沼、小笠原（幸）、澤田、福井（記録）

わがまちがめざすこと（目標）

■みんなで協力していざというときのために備えるまち！！

そのためにみんなが改善すべき点は？

＜地区懇談会で出た課題＞
▼各地区の避難場所が明確でない。
▼防災に対する町の周知が遅い（情報手段の不足）。
▼要介護者等の避難用具（車椅子、タンカー等）がない。
▼町民すべてが避難場所をわかっていない。
▼ハザードマップがない。
▼地区ごとのボランティアが少ない。
▼要介護者等が町内会では把握できない。
▼町内会の連絡網がない。
▼災害、犯罪や病気・要介護の町民の対応など安全に暮らすため体制が不足している。

＜策定委員会で出た課題＞
●災害時の避難体制に不安がある。
●防災無線が聞きづらい。
●災害時に高齢者の避難を援助したいが、どこに誰が住んでいるのかわからない。
●災害時には自分の家族のこともあり、どう動くのかマニュアルはあるのか？
●道路の段差があり車イスや杖利用、歩行器、小さい子どもが歩きづらい。
●子どもの安全な遊び場が心配。
●高齢者でいつも詐欺に遭う人がいるが、なかなかアドバイスを聞き入れてくれない。
●空き家が多くなり、防犯や災害時の問題がある。
●空き家の財産としての処理はどうなっているのか。

わたしたちの提案

効果大～2年以内にする

- □ ハザードマップを作成する。
- □ 避難用具を整備する。
- □ 地区ごとの避難訓練を行う。
- □ ボランティアを募り、地区での体制をつくる。
- □ 連絡網をつくる。
- □ 町の広報に町内会単位の避難場所の地図を載せる。
- □ 避難路を早期に整備する。

効果小～2年以内にする

効果大～2年より後でする

効果小～2年より後でする

テーマ4　ボランティア

グループ	福&福	メンバー	竜川、長谷川、川口、塚本、小笠原（実）、金沢、山名（発表）、木村（記録）

わがまちがめざすこと（目標）

■全住民（特に若者）がボランティアになる町へ

そのためにみんなが改善すべき点は？

＜地区懇談会で出た課題＞
▼若者が福祉に無関心。
▼ケガをした時の保障があるのか？
▼同じ人がいつも活動している。
▼受ける側に素直に受け入れない人がいる。
▼ボランティア活動の中身がわからない。

＜策定委員会で出た課題＞
●福祉に関心がある人が多いのに、ボランティア活動も地域活動も何も参加していない人がいる。

わたしたちの提案

効果大～2年以内にする

□ ボランティアニーズを把握する。
□ 確実なボランティア保険に加入する。

効果小～2年以内にする

□ （短期の犬の散歩、隣のおばあさんの昔話を聞く、温泉場での背中流し等）個別的ニーズを把握する。

効果大～2年より後でする

□ ポイント制度を導入する。

効果小～2年より後でする